

〈ケア〉を考える会 (第 109 回)

■日時：2016年 9月4日 (日) 13:30~17:30

■会場：京都市山科区安朱中溝町3-2
山科駅より東 徒歩3~4分の民家
(山添) (安朱保育園 東隣)

■当日の大まかな予定

13:00 → 有志集合…会場準備等

13:30~ → 学習会(読書会)

15:30頃~ → 懇親会(笑いヨガなども)

17:00~17:30 → 片付け、終了

(その後で、名残惜しコーヒータイム?)

■内容

(1) 学びの会 (読書会)

鷺田清一著 『老いの空白』 (岩波現代文庫、2015年刊)

▼この本の最終回です。▼『老いの空白』には、〈ケア〉を考えるうえで「軸」となるような言葉や考えが随所に見られます。そうした言葉をもう一度拾い出してみましょう。そして、その言葉や考えを、改めてじっくりと見つめなおしてみたいと思います。▼鷺田清一氏は「臨床哲学」を唱えています。そしてそのテーマの一つとして「ケア」を取り上げました。『老いの空白』は謂わば〈ケア〉についての「哲学」の本です。▼「〈ケア〉の哲学」というものがあるとしたら、それは如何なるものか、また、その「哲学」は〈ケア〉の「現場」でどのように活かされるのか、などと考えてみるのも面白いのではないのでしょうか。▼会に参加のみなさま、この本の中から、「見つめなおしたい」「これは大事そうだ」などという言葉、一つでも二つでも探して会場にお越しください。(そうしなければ参加してはいけない、という意味ではありません。念のため)。▼それと、相模原の事件を『老いの空白』の「哲学」で読み解く、というのもありかな。▼まあ、とにかく、会場に来て、時と場を共にすることに意味があるのですから。ご参加をお待ちしています。

(2) 懇親会…食べながら飲みながら語り合います (持ち込み歓迎)

※山添さんご夫妻の手料理は絶品です。

※懇親会参加者で実費(1000円程度)ご負担願います

★参加申し込み、問い合わせ、メーリングリスト登録希望

⇒ 林まで：884michiya@gmail.com 090-5366-1497

★どなたでも参加できます。初参加歓迎。飛び入り参加、突然参加もありです。

★読書会は、本を読んでいなくても気兼ねなく参加できます。読んでほしいけど……。



▼おたがいの言葉を手がかりに考える時間をもつこと、確かめながらゆっくりと考える時間を共にし、分け合う「考え」でなく、「考え方」をお互い共有してゆく
結論はありません
プロセスをゆたかに

(長田弘『なつかしい時間』P.191)

ひととひととの関係において重要なものは、各人が主体的にどのようにしようとしているかではなくて、いつとはなしにお互いが心を開いてしまっているという事態である。

(池上哲司『傍らにあること』P.169)

人であれ、物であれ、いのちを限りのほうから、終わりのほうから見ること。そのことで、わたしたちはじぶんのいのちが他のいのちとの交換のなかにあることを知らされる。

(鷺田清一『老いの空白』P.227)

「〈ケア〉を考える会」ホームページ
<http://care-kyoto.jimdo.com/>

「〈ケア〉を考える会-岡山」
<http://okayama-care.jimdo.com/>